キャラクター名
ヒルデ・ブラント　『戦の剣』

プレイヤー名

メインクラス	ウォーリア	**Lv.1:**		**レベル**	7
サポートクラス	モンク	**Lv.1:**	モンク	**性別**	
称号クラス				**年齢**	
種族	ヒューリン			**境遇**	師匠
出自（効果）	騎士			**目標**	憧憬

	筋力	**器用**	**敏捷**	**知力**	**感知**	**精神**	**幸運**
基本値	22	15	9	9	9	15	9
ボーナス	7	5	3	3	3	5	3
クラス修正	2	1	2	0	0	1	0
他修正						2	
能力値	9	6	5	3	3	8	3

HP	104
MP	60
フェイト	5

装備品		**射程**	**命中**	**攻撃**	**回避**	**物防**	**魔防**	**行動**	**移動**
右手	ピルム	至近	-1	13	0	0	0	-2	0
左手	ファインシールド		0	0	0	6	0	-1	0
頭部	グレートヘルム				-1	4			
胴部	アイアンサイド				-1	7			-1
補助	ファインポイントアーマー				-1	5			
装身具									
能力値			6	0	5	0	8	8	14
スキル						15	12		
その他									
総計(右)			5	13	2	37	20	5	13 m
総計(左)			6	0					
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	3			3	+ 2 d
トラップ解除	6			6	+ 2 d
危険感知	3			3	+ 2 d
エネミー識別	3			3	+ 2 d
アイテム鑑定	3			3	+ 2 d
魔術判定					+ d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品

現在重量：	0		
最大重量：	44	所持金： 100	預金・借金：

スキル名	**SL**	**コスト**	**タイミング**	**射程**	**対象**	**判定**	**制限**	**メモ**
オールラウンド	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果： キャラ作成時に任意の３つの能力基本値+1								
バッシュ	1	4	メジャー	武器	単体	命中		
効果： 武器攻撃を行う。ダメージロールに+[SLd]								
オートガード	3	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 【物理防御】+[SL*2]　【魔法防御】+[SL]								
カバーリング	★	2	ダメ前	至近	単体	自動	防御1	
効果： 対象にカバー。行動済みでも可能。行動済みにならない。								
カバームーブ	3	4	《カバーリング》	-	自身	自動		
効果： 《カバーリング》を「射程：20m」に変更。移動処理なし								
ディフェンダー	3	3	マイナー	-	自身	自動		
効果： 【物理防御】+[SL*3]								
ハードマッスル	3	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 【物理防御】に+[SL*3]								
レジストエレメンタル	3	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 【魔法防御】に+[SL*3]								
モアタフネス	3	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 【最大HP】に+[SL*5]								
マインドアデプト	★	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 【精神】+2								
セルフヒーリング	★	-	マイナー	-	自身	自動	1 1S1K	
効果： HPを[CL*10]回復								
アスレチック	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 登攀や跳躍を行なう【筋力】+1D								
エンラージリミット	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 携帯品の重量制限変更								
トレーニング:筋力	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 基礎筋力+3								
ビジランテ	1	-	パッシブ	-	自身	-		
効果： 隠蔽状態の発見または発見しようとする対象に対して【感知】+1D								

両親がいるが、特に父親が元騎士団に所属していた。
荒々しい素行とは別に、前線で猛威を振るっていた父はいわゆる『南蛮かぶれ』ならぬ『戦場かぶれ』といったところで、戦争あるところにわが父在りといった有様。
それを英雄談と取るか、子を大切にしない不出来な親と取るかは人次第だが、彼が思う所はそこではない。
彼の父は子をも戦争の日の中に放るため、火の源泉でこそ生き残る第二の自分として名前を授ける。
だが、この名前は『優しい友』によって正しく受け継がれることはなく、名前だけの人間となっている。
本人は突出したものを持ち合わせていないが、不殺にも等しい壁役に関して言えば経験の理がある。
戦場の剣を命じられた彼は、皮肉にも誰かを護る盾となったのだ。それは、憧れの先にある。